

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110	17-004	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Mortality and causes of death among women with a history of placental abruption. 胎盤早期剥離を経験した女性における予後死亡と死亡要因		
執筆者		
Riihimäki O, Paavonen J, Luukkaala T, Gissler M, Metsäranta M, Andersson S, Nuutila M, Pukkala E, Melin J, Tikkanen M.		
掲載誌		
Acta Obstet Gynecol Scand. 2017 Nov;96(11):1315-1321. doi: 10.1111/aogs.13212.		
キーワード		PMID
胎盤早期剥離、死亡、呼吸器系腫瘍、コホート研究		28832915
要 旨		
目的； 胎盤早期剥離を経験した女性では、後の死亡割合が高いという報告があるが、死亡に関する研究は少ない		
方法； フィンランドにおける研究（The Finnish Hospital Discharge Register and the Finnish Medical Birth Register）より、1969年から2005年までに早期胎盤剥離を経験した女性7,805名のデータを抽出した。更に、対照群として、早期胎盤剥離歴のない女性2,353名のデータが抽出された。死亡要因は、登録研究 the Cause-of-Death Registerからのデータが用いられた。主要アウトカムは死亡とし、総死亡と死因別による評価が行われた。2つのコホートを比較するために標準化死亡率が用いられた。		
結果； 調査期間において、早期胎盤剥離歴群では395名が死亡し、対照群では63名の死亡があった。死亡率は、対照群に比べて早期胎盤剥離歴群においてハザード比1.39倍（95% confidence interval (CI) 1.24-1.57）であった。死因別で評価した結果、呼吸器系悪性腫瘍死亡（ハザード比1.72倍, 95% CI 1.05-2.82）、飲酒関連死亡（ハザード比1.84倍, 95% CI 1.25-2.72）、その他の死亡（ハザード比1.63倍, 95% CI 1.19-2.22）、自殺（ハザード比1.71倍, 95% CI 1.07-2.74）において、早期胎盤剥離歴群の死亡率が有意に高かった。心血管系死亡では有意差が見られなかった。コホート the general Finnish female population においては、標準化死亡率も総死亡と呼吸器系悪性腫瘍死亡において早期胎盤剥離歴群が高かった（各々のハザード比； 1.13倍(95% CI 1.02-1.24)、1.79倍(95% CI 1.16-2.64)）。早期胎盤剥離歴群では死亡年齢が対照群よりも低かった(p < 0.001)。		
結論； 胎盤早期剥離を経験した女性の総死亡割合は高く、死亡年齢も低いことが明らかになった。		